

2026年5月12日

各位

株式会社三井住友銀行

宮島醤油株式会社に「SMBC 社会課題解決推進支援融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、宮島醤油株式会社（代表取締役社長：宮島 治）に「SMBC 社会課題解決推進支援融資」を実施いたしました。

「SMBC 社会課題解決推進支援融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：内川 淳）が、企業の社会課題解決に向けた取り組み状況を確認した上で、①組織の社会課題への取り組み姿勢等に対する所見と、②ロジックモデル（事業活動を通じた社会課題への道筋が見える化したもの）の仮説を提示し、今後の取り組み推進に向けたアドバイス等をご提供する融資商品です。

今回対象となりました、宮島醤油株式会社については、以下に記す事業を通じた社会課題解決について、取組推進に向けたアドバイス等を提供しました。

① CO2 排出管理と省エネ推進による脱炭素への取り組み

事業内容	製造現場、事務所、倉庫等においてLED照明や高効率空調機、省エネ型生産設備等の導入を進め、省エネルギー化に取り組んでおられます。さらに、データ基盤を活用してCO2排出量を可視化し、統合的に管理する仕組みの構築を進めることで、脱炭素に向けた取り組みの高度化を図っておられます。
当該事業を通じて解決を目指す社会課題	気候変動の緩和
社会課題解決への貢献内容	これまで進めてきた生産工程における省エネの取り組みを基盤として、CO2排出量の可視化・統合管理を進めることで、排出状況に基づく継続的な改善活動の推進が期待されます。これにより、生産工程におけるエネルギー効率の向上とCO2排出量の削減を通じて、気候変動の緩和につながることを期待できます。

（参考）社会課題概要

世界の平均気温は上昇し続けています。2023年は最も暑い年となり、産業革命前と比べて1.5℃近く上昇しました。気候変動は企業に様々なリスクをもたらします。海面上昇により沿岸部の工場の操業停止を余儀なくされるリスク（「物理リスク」）や、国による規制等の強化により事業活動が制限されるリスク（「政策リスク」）、社会・消費者の需要の変化により事業機会が縮小するリスク（「市場リスク」）等が考えられます。

② 食品資源の有効活用とフードロス削減を通じた地域社会への貢献

事業内容	食品廃棄物削減に向けて、昆布残さ等の副産物を他事業者へ提供し、食品原料等として活用する取り組みを進めておられます。また、出荷期限内に販売できなかった商品についてはフードバンクへ寄贈することで、食品資源の有効活用に取り組んでおられます。
当該事業を通じて解決を目指す社会課題	フードロスの削減
社会課題解決への貢献内容	食品残さの二次利用の促進により食品廃棄物の削減を図ると共に、フードバンクへの寄贈を通じてフードロスの削減と地域の支援世帯への食料提供に寄与しています。食品資源の有効活用を通じて循環型社会の形成と地域の生活支援の両面に寄与しておられます。

(参考) 社会課題概要

日本では、まだ食べられる食品が年間 500 万トン以上も廃棄されており、エネルギー消費や温室効果ガス排出等の観点から、環境への悪影響が懸念されています。食品の生産にあたり、農産物の生産や収穫、加工、食品の製造といった各段階でエネルギーが必要とされますが、食品を廃棄するということは、それらのエネルギーを無駄にすることでもあります。また、処分場までの運搬や焼却が温室効果ガスの発生原因となっています。

株式会社三井住友銀行では、「SMBC 社会課題解決推進支援融資」を通じて、お客さまの幅広い社会課題解決に向けた取組を支援することで、お客さまとともに社会的価値創造の好循環を生み出す取組を推進してまいります。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

法人戦略部 サステナブルソリューション室

TEL : 03-4333-6965

このお知らせは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。